

稲・大豆作情報 (NO. 3)

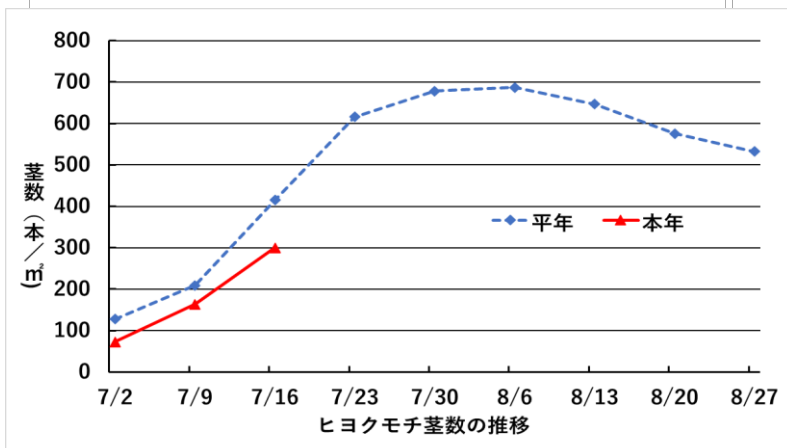
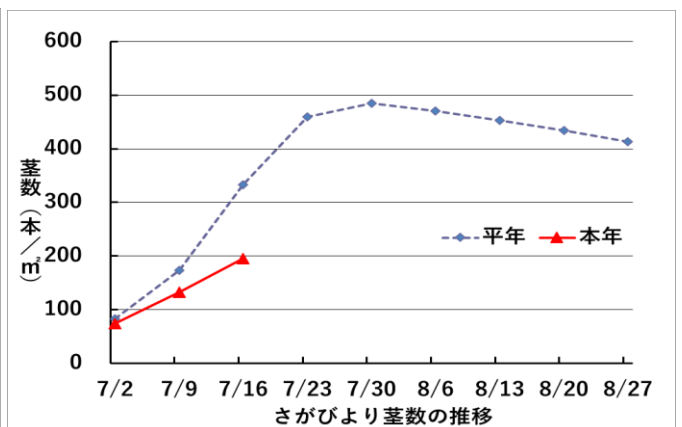
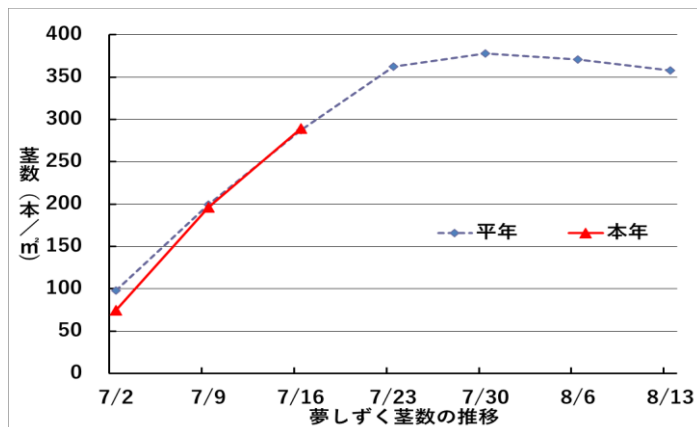
1. 水稻作況情報田の生育概況 (7月17日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/㎡	葉 齢	葉 色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/㎡	本 年	57.2	289	9.8	41.0	7月3半旬は、気温はやや低く(-1.9℃)、多雨(340%)、寡照(29%)で経過している。 ◇平年と比べ、 草丈:「夢しずく」はやや高く、「ヒヨクモチ」は平年並み、「さがびより」は低い。 茎数:「夢しずく」は平年並、「ヒヨクモチ」「さがびより」は少ない。 葉齢:「夢しずく」、「ヒヨクモチ」はやや進んでいる。「さがびより」はやや遅れている。 葉色:「夢しずく」は平年並み、「ヒヨクモチ」は濃ゆく、「さがびより」は淡い。
		平 年	49.1	287	9.1	41.0	
		平年比	(116)	(101)	(0.7)	(0.0)	
さがびより 小城市芦刈町	6/22 18.5株/㎡	本 年	40.2	195	8.4	37.5	
		平 年	42.7	333	9.2	40.4	
		平年比	(94)	(59)	(-0.8)	(-2.9)	
ヒヨクモチ 神崎市神埼町	6/21 19.0株/㎡	本 年	36.9	300	9.6	45.1	
		平 年	36.0	415	9.3	40.7	
		平年比	(102)	(72)	(0.3)	(4.4)	

注1) 各品種 前作: 麦 注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる

注3) 平年値は、過去10年間(H25~R5)の平均値(さがびよりについては、R1年を除くH25~R5年の平均値)

注4) ヒヨクモチは今回神埼町のデータを用いています



◆農業試験研究センター米づくり情報3号 7月16日（抜粋）

本年産水稻の生育状況（7月16日）

移植日	項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
6月18日	夢しずく	本年	48.6	297	9.1	39.1	[気象] 7月9日～15日まで ◆平均気温…平年より0.4℃低い ◆日照時間…短い(平年比 41%) ◆降水量…多い(平年比 226%) [生育] ◆草丈 「夢しずく」、「ヒノヒカリ」、「さがびより」は高く、「ヒヨクモチ」はやや高い。 ◆茎数 「夢しずく」、「ヒヨクモチ」は少なく、「ヒノヒカリ」、「さがびより」はやや少ない。 ◆葉齢 「夢しずく」、「さがびより」は平年並み、「ヒノヒカリ」はやや多い、「ヒヨクモチ」はやや少ない ◆葉色 「夢しずく」、「さがびより」はやや濃く、「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」は濃い。
		平年	45.1	325	9.1	38.1	
		平年比(差)	108	91	±0	+1.0	
	ヒノヒカリ	本年	44.0	429	9.4	42.8	
		平年	39.6	440	9.2	40.5	
		平年比(差)	111	98	+0.2	+2.3	
6月20日	さがびより	本年	43.3	304	9.0	42.2	
		平年	38.9	321	9.0	40.9	
		平年比(差)	111	95	±0	+1.3	
	ヒヨクモチ	本年	37.3	520	9.1	43.9	
		平年	36.2	562	9.5	41.6	
		平年比(差)	103	93	-0.4	+2.3	
留意点	○ 7月10日以降曇天が続く、日照時間が極端に少なく、降雨も多かったことから、各品種とも、急激に伸長(10cm～15cm程度)した。茎数は6号・7号分けつや3・4号の二次分けつが発生しているが、先週より鈍化した。 ○ 茎数が少ない圃場では速やかに浅水管理とし、分けつ促進と充実を努める。						

注1) 耕起概要等は前号参照。

2. 水稻における今後の管理

これまでの大雨で軟弱徒長し、茎数が不足している圃場が見受けられるので、適正な水管理を行い、有効茎の確保に努める。

○水管理 ～ 稲体の健全化を図る ～

- ・今後も浅水管理・間断灌水を徹底し、分けつ発生を第一に管理する。
- ・麦わら等の有機物の分解に伴うガス発生が多い圃場では、落水（地干し）を行い土壌の急激な還元化を抑制する。
- ・深水で推移した圃場などでは、スクミリングガイの被害が見られるため、浅水管理を基本に必要な応じ薬剤防除（メタアルデヒド剤等）を検討する。

○穂肥（「夢しずく」）

- ・早植えの夢しずく（5月下旬～6月上旬移植）では、穂肥施用時期に達している（幼穂長1～5mm程度）。
- ・普通期の夢しずく（6月中旬移植）では、間もなく幼穂形成期を迎える。
- ・幼穂形成期を迎えた圃場は中干しを終え、穂肥施用時は湛水し、その後地固めと根に空気を送るため、穂ばらみ期まで「間断冠水（2日湛水3日落水）」を実施する。
 なお、施用時期が遅れないように表1の穂肥診断基準（草丈・葉色・幼穂長の確認）に基づき、穂肥を施用する。
- ・いもち病が発生している圃場は、穂肥施用によりいもち病の発生を助長する可能性があるため、施用にあたっては十分注意する。

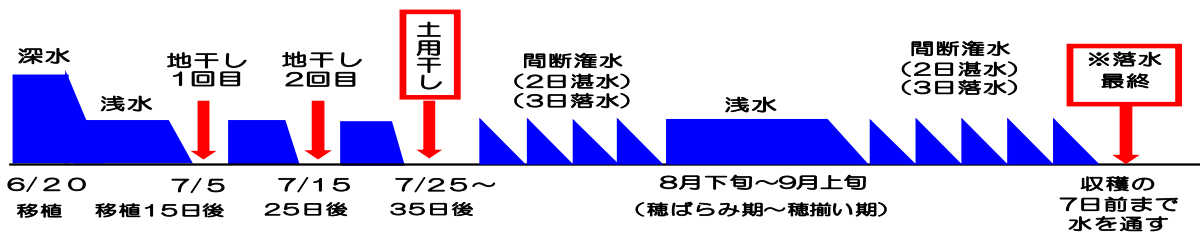
表1. 「夢しずく」穂肥診断基準

幼穂形成始期の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
73cm以下	3.0以下	34以下	20～22日	1mm	3.0	20.0
	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	3.0	20.0
	3.5～3.8	38～39	15～14日	10-15mm	1.6	10.0
	3.8以上	40以上	晩限は止葉抽出終了まで		1.0以下	6.0
73～79cm	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	1.6	10.0
	3.5～3.8	38～39	14～15日	10-15mm	1.0	6.0
	3.8以上	40以上	施用しない			
80cm以上	原則として施用しない					

※草丈は、幼穂の伸長程度により幼穂形成期（1mm）を基点に、前後1日あたり1cm増減する。
※出穂前15日以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない。

(普通期水稻)

・分けつの確保及びスクミリンゴガイの食害回避のため、浅水管理を基本に行う。



- ・1株あたり茎数が20本以上確保できた圃場は、下の表2を参考に落水し「中干し」を実施する。
- ・1株あたり茎数が20本以上確保できていない圃場では、分けつの確保及びスクミリンゴガイの食害回避のため、浅水管理を基本に行う。
- ・幼穂形成期は、中生品種で8月上旬頃、晩生品種で8月中旬頃となるため、移植が遅れた圃場などでも、遅くとも8月上旬までは中干しを終える。

表2. 品種毎の中干し時期(圃場の生育状況に合わせて実施しましょう)

品種名	中干しの時期	中干しの程度
「ヒノヒカリ」 「ヒヨクモチ」	7月20日～25日頃	やや強め 土に約1cmヒビが入る程度(白乾手前)
「さがびより」		弱め 土は黒く軽くヒビが入る程度

※排水不良田では、白乾が始まる程度のやや強めの中干しを行う。


○雑草防除 ～節水栽培などで、雑草が発生してきたところは、早めの対策を～

- ・除草剤が散布できなかつた圃場や除草剤処理後に田面が露出した圃場などでは、雑草の発生が見られる。放置するとヒエや広葉雑草が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、雑草の生育（葉齢）に注意し中後期除草剤による早めの対策を講じる。

対象	除草剤名	使用時期	備考
ヒエ類	クリンチャー I 粒剤	移植後 7 日～ビエ 4L 但し、収穫 30 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
	クリンチャー EW	移植後 20 日～ビエ 6L 但し、収穫 30 日前まで	落水散布。展着剤加用。
	ヒエクリーン I 粒剤	移植後 15 日～ビエ 4L 但し、収穫 45 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
広葉雑草	バサグラン粒剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 60 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。
	バサグラン液剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 50 日前まで	高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。
ヒエ類および広葉雑草	クリンチャーバス ME 液剤	移植後 15 日～ビエ 5L 但し収穫 50 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。（展着剤無加用）
	ハイカット I 粒剤	移植後 15 日～ビエ 3.5L 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
	フォローアップ I 粒剤	移植後 15 日～ビエ 5L （稲 4 葉期以降） 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布（3～5 日は湛水）
	ワイドアタック SC	移植後 20 日～ビエ 6L （稲 5 葉期以降） 但し、収穫 30 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。（展着剤無加用）

○病害虫情報（発生および防除）

- ・7月10日現在、ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）は、梅雨の前線に伴う飛来（6/23～、7/1～）が確認されている。
- ・特に、7/1に、トビイロウンカの誘利数が多くなっており、佐賀市でも7/3に確認されている。
- ・一部の圃場ではウンカ類の幼虫（セジロウンカ第一世代の幼虫が主体）が確認されている。
- ・ウンカ類の飛来量は下表のとおりとなっており、トビイロウンカの発生予測は、下図のとおり。
- ・品種別に発生状況は異なると考えられるため、発生状況を確認し、防除時期の判断・適期防除に努める。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を、農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

佐賀県 農業技術防除センター 

海外飛来性害虫情報第5号(ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況) (令和6年7月10日更新)

月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ								
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県				長崎県				
		佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップA	諫早市 ネット トラップB	佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップA	諫早市 ネット トラップB	佐賀市 フェロモン トラップA	佐賀市 フェロモン トラップB	神崎市 粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	伊万里市 粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	白石町 粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	武雄市 粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	諫早市 フェロモン トラップA	諫早市 フェロモン トラップB	
6	19	0	1	0	0	0	1	6	0	0	0								0	0
6	20	0	3	0	0	0	0	10	2	0	0								0	0
6	21	0	8	0	0	0	0	25	0	0	0							4	0	
6	22	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	欠測	0	0	1	0	0	
6	23	0	24	0	0	0	25	66	8	1	1							10	0	
6	24	0	14	0	0	0	13	92	5	0	2							18	0	
6	25	0	1	0	0	0	0	148	1	0	0	0	0	3	0	0	3	25	3	
6	26	0	9	0	0	0	0	187	0	0	0							16	0	
6	27	0	3	0	0	0	2	8	0	0	0							7	1	
6	28	0	7	0	0	0	0	30	4	0	0							2	0	
6	29	0	4	0	0	0	3	31	2	0	0	0	0	5	0	0	1	1	0	
6	30	0	13	0	2	0	15	5	0	3	0							2	0	
7	1	0	229	0	0	0	14	88	0	1	0							2	3	
7	2	0	41	0	0	0	0	97	0	0	0	0	0	3	0	0	1	4	2	
7	3	1	欠測		0	0	1	欠測		0	0							2	2	
7	4	0	5		0	0	0	3		0	0							2	0	
7	5	0	0		0	0	5	9		1	0				1			2	0	
7	6	0	0		0	0	0	5		0	0							2	1	
7	7	0	0		0	0	0	0												
7	8	0	1				2	1												
7	9	1	0				0	0												
7	10	0					1													

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。
注2)コブノメイガ:神崎市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

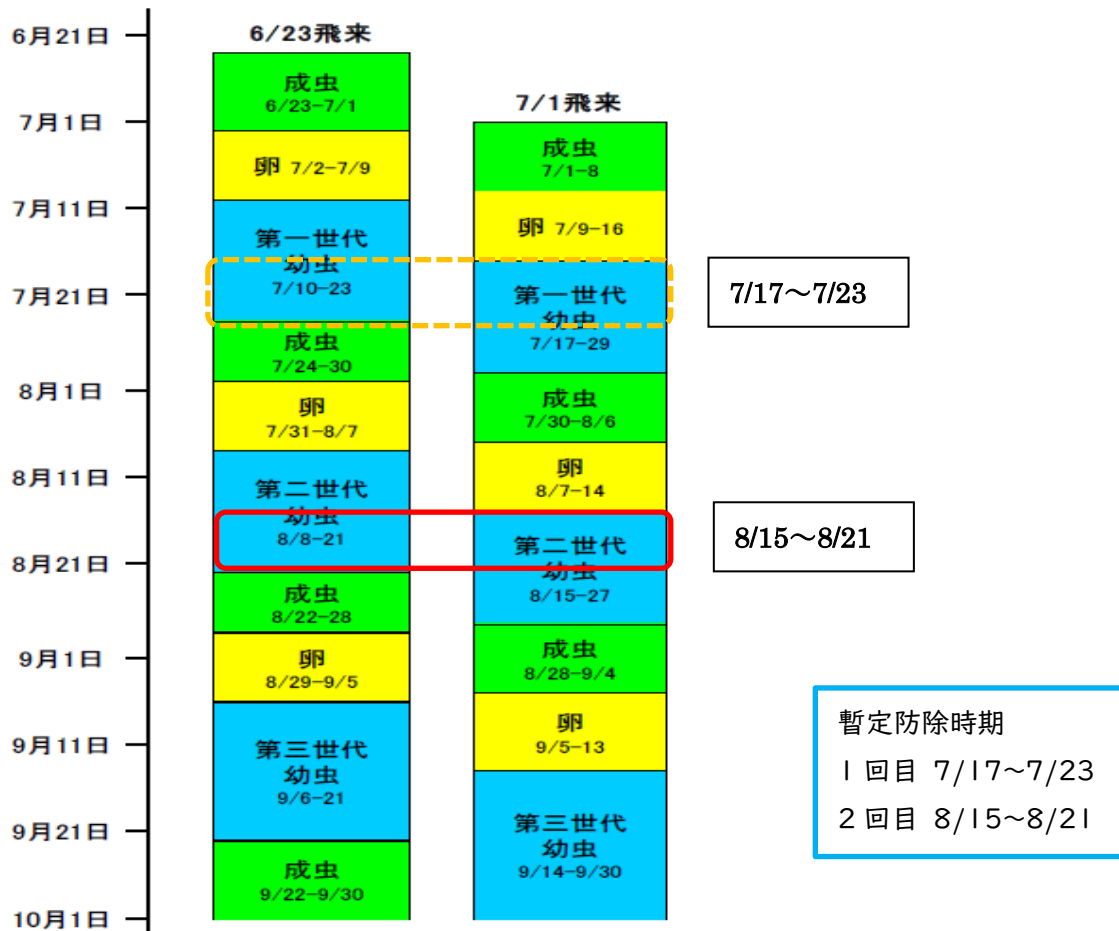


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測 (第1版、2024年7月4日作成)

1. 6月23日~24日頃(図では6月23日)、7月1日~2日(図では7月1日)の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ(7月4日以降は平年値)に基づき作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

3. 大豆における今後の管理

1) 大豆の生育状況

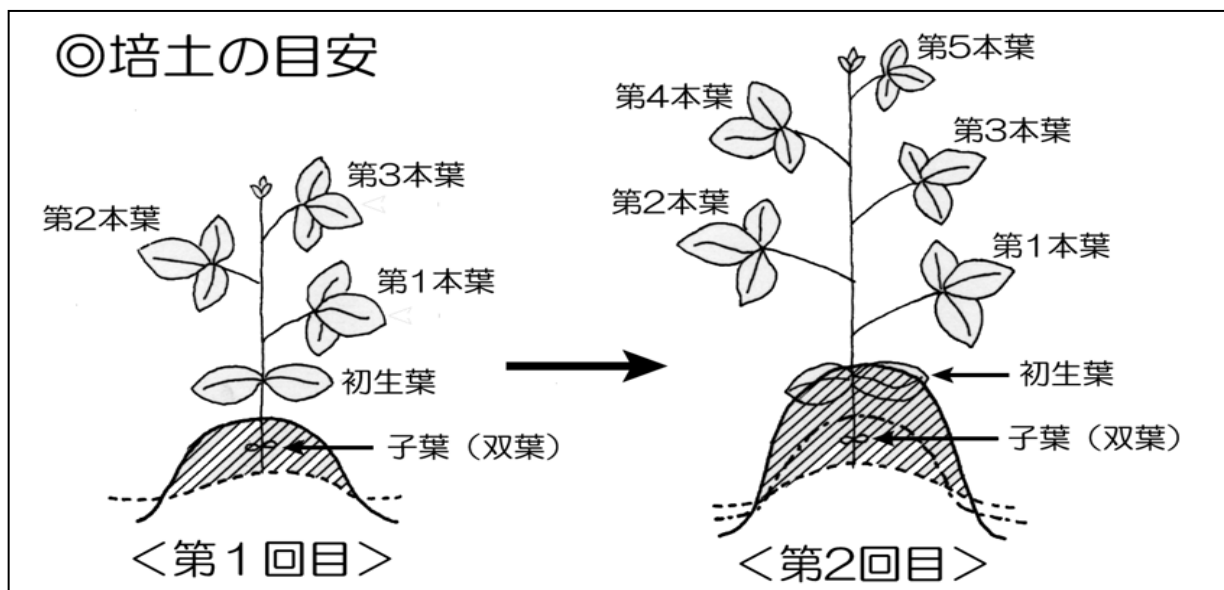
一部の圃場で播種作業が終了し、出芽期～本葉の展開期となっていますが、多くの圃場では播種作業は7月下旬以降となる見込みです。

2) 今後の管理

○中耕・培土の実施

・7月上旬播種 : 7月下旬には1回目の培土時期を迎えます。本葉が3枚開いているのを確認したら子葉が隠れる程度まで1回目の培土を行ってください。

特に、降雨等で除草剤の散布ができなかった圃場では、早めの中耕培土で雑草対策を行いましょう。



○圃場準備 ~ 耕起は水分の低い時に。大雨・長雨予報の時は無理しない~

- ・大豆は、石灰の吸収量が多く、根粒菌の活動促進のため、石灰を必ず施用する(適正 pH6~6.5)。
- ・播種後2日間の大雨や浸水で、発芽率が著しく低下(酸素不足による窒息)するため、播種後2~3日以内の大雨が予想される場合は無理して播種しない。
- ・荒起こしは、圃場が乾くのを待ち、なるべく播種前日~当日に行う。播種後に晴天が予想される場合、乾燥による発芽率の低下が懸念されるため、荒起こしと播種耕起の間隔を空けない。

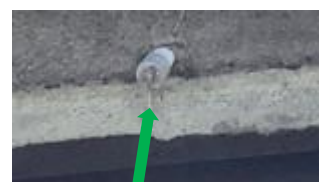
なお、耕うんと播種を2台のトラクターで並行して組作業を行えば、土壤水分を確保しつつ播種が可能である。

- ・播種は、成形ロータリもしくは、麦用の「畦盛り板」を装着し、畦立て播種すれば、表面排水も良くなるため、浸水による出芽不良を軽減することができる。

この場合、培土に使う土を確保するため荒起こしを深めに行い、播種時は浅めに起こしながら条間を中耕培土できるようにする。

○干ばつ対策

- ・梅雨明け後に高温・乾燥が続く予報の場合は、コルゲート管の閉栓が土壤水分確保に有効である。



コルゲート管の閉栓

○播種

- ・種子消毒：多湿条件で播種した大豆は、発芽の遅れや、土中で種子が腐り発芽・苗立ちが劣りやすい。そのため、土中での種子の腐敗リスクを軽減するために、種子消毒（クルザーMAXX、キヒゲン R2 フロアブル）等を徹底し、発芽率向上に努める。
- ・播種深度：
播種後に晴天が続く場合や、土壌が乾燥気味の場合→4～5 cm前後の深めに播種かつ鎮圧する
播種後2～3日以内に降雨が予想される場合 → 2 cm程度の浅めに播種、鎮圧はしない。
- ・播種量：大豆の播種適期は7月上中旬であるが、それ以降の播種は生育量の確保が難しくなるため、播種時期に適した栽植本数を確保する。

播種時期 (月/日)	栽植本数 (㎡当り)	栽植様式(例) (条数)条間×株間×1株本数	播種量 (/10a)	窒素施肥量 (/10a)
7/16～7/25	18本	(2条)75cm×15cm×2本	5～6kg	—
	20本	(3条)50cm×20cm×2本		
7/26～7/31	24本	(2条)75cm×11cm×2本	7～8kg	4～6kg
	27本	(3条)50cm×15cm×2本		

※7/31以降に播種を行う圃場で地力が低い圃場については、窒素成分で4kg/10aの基肥施用を検討する。

◎ 基肥の施用例 (kg/10a)

硫安の場合 → 20kg 尿素の場合 → 10kg

注意) 基肥を施用した場合は、根粒菌からの窒素供給が劣ります。
収量確保のため、9月上中旬に「花肥」の施用（窒素4～8kg/10a）が効果的です。

○雑草防除

- 播種前) 「ラウンドアップ」「プリグロックス」など茎葉処理剤の散布において、風の強い日の散布は周辺水稻へ飛散する危険が大きいため必ず避ける。(場合によっては枯死まで至る)
- 播種直後) 土壌処理剤を散布し、雑草防除を行う。特に、近年問題となっているホオズキの発生が多い圃場では、「ラクサー乳剤」「フルミオ WGD」が効果的である。播種直後の散布でも隣接圃場の水稻へドリフト防止のため風速と風向きに注意し、風が強い日には散布しない。

※アサガオについては、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため、見つけ次第手で抜き取る。
※すでにアサガオ類が多発している圃場では、トレファノサイド乳剤の全面土壌混和处理(播種前に200～300ml/10a散布→速やかに荒起→播種)で密度を減らすことができるため、土壌処理剤や大豆生育期除草剤、中耕・培土と組み合わせた防除を実施する。

令和6年産水稻・大豆生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター

